

坂 出 港 統 計 要 覧

平成 2 4 年

坂出市建設経済部みなと課

坂出港の概要

(1) 概 要

港湾は流通活動、産業活動の重要な基盤をなしており、地域開発と密接な関係から、都市の経済発展上切り離すことのできない重要な施設である。

本市の港湾は重要港湾としての坂出港、地方港湾としての木沢港と与島港の3港がある。重要港湾であり香川県の代表的な港である坂出港は、香川県海域のほぼ中央に位置し古くから瀬戸内海における海上交通の要所として、重要な役割を果たしてきた。

本港は、約180年前（天保2年）坂出港付近の塩田築造とともに開設され、現在の西運河および沖湛甫を中心に、主として塩田関係の輸送に利用されていた。その後、本港本来のすぐれた立地条件により、和船の往来も頻繁で備讃瀬戸における重要な港湾となり、中国・阪神・九州さらに北海道方面との交易にも利用されるようになった。

坂出港の港湾整備は、明治33年の港湾実態調査に始まり、大正5年より5箇年計画をもって、まず内港運河の浚渫工事から着手された。その後、昭和3年より東亜圏内の貿易を目標として、本格的な第1期改修工事に着手し、東西埋立地31.1万平方メートル、水深7メートル西岸壁延長274メートル、港内泊地21万平方メートルの浚渫などが行われ、昭和12年より第2期改修工事が着手され、近代的港湾の基礎が築かれた。昭和23年1月には開港の指定を受け、同年7月には港則法による港域が設定された。その後昭和26年9月には重要港湾に格付けられ、つづいて昭和28年7月には、坂出市が港湾管理者として認可され、税関・海上保安署・検疫所・植物防疫所・入国管理事務所等の行政機関も設置された。

昭和27年1月、瀬戸内海一貫航路および坂出航路の安全宣言が行われるに至り、益々港湾活動は活発となった。さらに、大型船も続々入港するようになり、昭和34年6月からは、中央突堤東側に水深10メートル岸壁1バース、北側に水深6メートル岸壁1バースをそれぞれ工事着手し、昭和38年12月に完成した。

また、昭和40年4月には、県営番の州第1期公有水面埋立（464.9ha）も免許され、直ちに同埋立てに着手、さらに昭和44年5月には、第2期公有水面埋立（150.8ha）が免許、番の州埋立ては、順調に進捗し、昭和42年には、(株)川崎造船が操業を開始し、つづいて三菱化学(株)、四国電力(株)、コスモ石油(株)、YKK(株)等、大型の近代化企業が相次いで立地操業し、香川県工業開発の中核として、本港は飛躍的に発展した。これに伴い、入港船舶の大型化と取扱貨物量の増大等に対応する必要から、本港の新たな拠点づくりとして、林田地区で昭和44年3月より、水深4.5メートル岸壁2バース、水深5.5メートル岸壁3バース、水深7.5メートル岸壁2バース、水深12メートル岸壁2バース、またこれに対応する航路・泊地87.1万立方メートルの浚渫をそれぞれ着手し、昭和57年4月に供用開始し、坂出港を代表するふ頭に発展している。

さらに、「世紀の大事業」といわれる瀬戸大橋は、昭和53年10月に着手され、昭和63年4月に完成し、それと接続する四国内の高速道路網も順次整備されている。また、物流機能の充実

を図るため、阿河浜地区に水深 7.5 メートル岸壁 1 バース、またこれに対応する泊地 1 万平方メートルの浚渫を行い平成 3 年 4 月に供用を開始すると共に、松ヶ浦地区における水深 5 メートル岸壁 2 バースの増設が平成 4 年 4 月に供用を開始した。

さらに、坂出港東部地区の円滑な臨港交通体系を確立するため、林田地区と阿河浜地区の両地区と背後幹線道路（さぬき浜街道）を結ぶ臨港道路林田・阿河浜線（総延長 1,698m、幅員 22m）が平成 12 年 5 月に供用開始した。

平成 16 年には、SOLAS 条約の改正に関連した国内法（略称：国際船舶・港湾保安法）の制定に基づき、坂出港の貿易ふ頭では港湾保安対策を実施する義務が生じ、公共ふ頭では中央ふ頭 1 号・2 号岸壁及び林田 A 号岸壁、民間ふ頭では、三菱化学(株)、コスモ石油(株)、全農エネルギー(株)で保安対策を実施し、世界標準規格の貿易港としての機能を保持している。

また、平成 17 年 11 月の、FAL 条約(国際海上交通の簡易化に関する条約)の施行に基づき、同条約に係る様式、及びそれ以外の手続(一部)申請の電子化(港湾 EDI システム)を実施し、簡易化・迅速化に努めている。

また、平成 20 年 2 月に西ふ頭地区において、外内貿貨物取扱機能を強化するため、水深 7.5 メートル岸壁 2 バース、内 1 バースは耐震強化岸壁とする港湾計画の変更を行い、平成 20 年度より着手している。

平成 22 年度には、四国電力(株)、コスモ石油(株)、四国ガス(株)が共同で設立した、坂出 LNG(株)が、四国最大の液化天然ガス(LNG)基地を建設し 3 月より稼働している。

また、平成 23 年 8 月より坂出港改修工事による西岸壁の利用停止に伴い、一部埠頭で正確な船舶情報を基にした、公平・透明性のある船席指定を行うため港務所支援業務の委託を開始した。

(2) 港湾区域

沙弥島北端から小瀬居島南端および大屋富町字鼻甲 3,095 番地の 2 を順次結んだ線ならびに陸岸により囲まれた海面、ならびに綾川河口の江尻町字本条 1 番地の 1 の東南端角および林田町字与北 4,233 番地の丙の西南端角を結ぶ線、青海川松山橋および大屋富川新興橋、満の尻運河満の尻橋下流の河川水面。ただし、漁港漁場整備法により指定された御供所漁港、東浦漁港及び西浦漁港の区域を除く。

坂出港の沿革

年 代	西 曆	記 事
天保 2 年	1 8 3 1	帆船錨地として沖湛甫築造。
大正 元 年	1 9 1 2	築港期成同盟会生れる。
大正 5 年	1 9 1 6	五ヶ年計画を以って内港運河の浚渫工事施工。
昭和 3 年	1 9 2 8	西岸壁・東西埋立地等第 1 期改修工事に着手、昭和 7 年まで実施。 (工事費 1 4 2 万 6 千円)
昭和 12 年	1 9 3 7	中央突堤の築造を県営工事として、第 2 期改修工事に着手、 第 2 次世界大戦のため中断し、昭和 3 8 年 2 月完成。
昭和 20 年	1 9 4 5	1 0 月 2 4 日 坂出港振興協会発会式。
昭和 21 年	1 9 4 6	1 2 月 2 1 日 南海大震災により、西岸壁災害を受ける。
昭和 22 年	1 9 4 7	3 月 震災復旧工事・臨港鉄道敷設に着手。
昭和 23 年	1 9 4 8	1 月 1 日 関税法による開港となる。 7 月 1 6 日 港則法による港の区域の指定。
昭和 24 年	1 9 4 9	1 1 月 輸入食糧第 1 船 (石狩川丸) 入港。 1 2 月 臨港鉄道中央岸壁線開通。
昭和 26 年	1 9 5 1	6 月 2 0 日 港湾運送事業法により指定港となる。 9 月 2 2 日 港湾法施行令により重要港湾となる。
昭和 27 年	1 9 5 2	7 月 3 1 日 出入国管理令により外国人の出入港となる。
昭和 28 年	1 9 5 3	7 月 3 0 日 港湾区域が決り、坂出市が港湾管理者となる。
昭和 29 年	1 9 5 4	1 2 月 1 6 日 植物防疫法により、穀類・木材の輸入港に指定。
昭和 33 年	1 9 5 8	7 月 1 日 検疫法により検疫区域の指定。
昭和 35 年	1 9 6 0	1 1 月 港湾審議会第 1 1 回計画部会。
昭和 37 年	1 9 6 2	1 月 江尻地区臨港道路新設工事着手。(3 8 年 3 月竣功) 金山新塩田埋立工事着手。(3 8 年 1 0 月竣功)
昭和 39 年	1 9 6 4	1 1 月 港湾審議会第 2 4 回計画部会。(改訂)
昭和 40 年	1 9 6 5	3 月 5 日 臨港地区を指定。 4 月 県営番の州地区第 1 期公有水面埋立工事着手 (4 8 年 6 月竣功 4, 5 8 9, 2 1 9 m ²)
昭和 43 年	1 9 6 8	1 2 月 1 6 日 港湾区域を拡張し、番の州地先海面が含まれる。
昭和 44 年	1 9 6 9	1 月 県営番の州地区第 2 期公有水面埋立工事着手。 (4 7 年 1 2 月竣功 1, 4 3 9, 9 8 9 m ²) 3 月 2 5 日 林田地区改修事業に着手。
昭和 45 年	1 9 7 0	1 1 月 2 0 日 港湾区域を変更し、松ヶ浦港が含まれる。 3 月 西浜地区公有水面埋立工事着手。 (4 7 年 8 月竣功 5 9, 4 5 2 m ²) 5 月 3 0 日 臨港地区を指定変更し、番の州地区等を追加。
昭和 46 年	1 9 7 1	4 月 1 日 港湾合同庁舎完成。
昭和 47 年	1 9 7 2	1 0 月 県営番の州瀬居南公有水面埋立工事着手。 (5 0 年 1 0 月竣功 1 6 1, 5 5 8 m ²)
昭和 51 年	1 9 7 6	1 1 月 林田、阿河浜地区公有水面埋立工事着手。 (林田地区 5 6 年 1 1 月竣功 2 0 9, 8 7 3 m ²) (阿河浜地区 5 8 年 3 月竣功 8 0, 1 6 2 m ²)
昭和 55 年	1 9 8 0	3 月 港湾審議会第 8 9 回計画部会。(改訂) 9 月 8 日 坂出清港会設立。

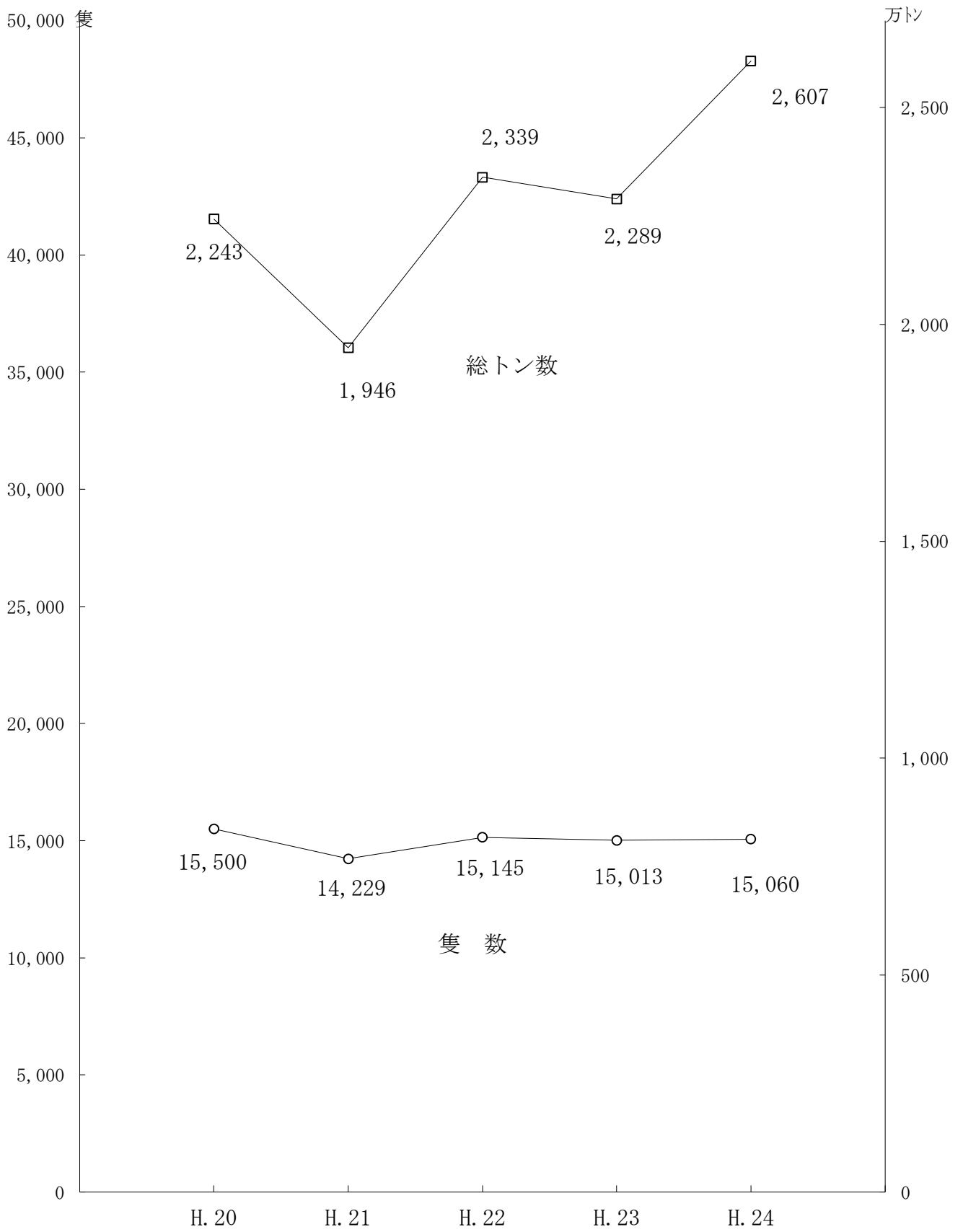
年 代	西 暦		記 事
昭和 57 年	1 9 8 2	4 月	林田地区－7.5m 2バース・－12m 岸壁を供用開始。
昭和 58 年	1 9 8 3	3 月	沿岸環境監視船「おおはし」就航。
昭和 59 年	1 9 8 4	6 月	港湾環境設備事業により、みなと林田緑地が完成。
昭和 60 年	1 9 8 5	7 月	西運河船客待合所が完成。
昭和 61 年	1 9 8 6	1 0 月	臨港線が廃止される。
		1 2 月	港湾審議会第117回計画部会。(改訂)
昭和 63 年	1 9 8 8	4 月 1 0 日	本州四国連絡橋(瀬戸大橋)供用開始。
平成 3 年	1 9 9 1	4 月	阿河浜地区－7.5m 岸壁供用開始。
平成 4 年	1 9 9 2	4 月	松ヶ浦地区－5m 岸壁 2バース供用開始。
平成 6 年	1 9 9 4	4 月	総社地区小型船だまり供用開始。
平成 9 年	1 9 9 7	1 1 月	港湾審議会第164回計画部会。(改訂)
平成 10 年	1 9 9 8	1 月 1 日	坂出港開港50周年。
		1 2 月 2 1 日	坂出市港務所改築完成。
平成 12 年	2 0 0 0	5 月	臨港道路 林田・阿河浜線供用開始。
平成 16 年	2 0 0 4	8 月 2 日	中央埠頭1号岸壁・林田A号岸壁で港湾保安対策開始。
平成 17 年	2 0 0 5	1 月 3 1 日	中央埠頭2号岸壁で港湾保安対策開始。
		2 月 7 日	坂出港国際水域施設保安対策開始。
平成 18 年	2 0 0 6	1 月 4 日	港湾EDIシステム開始。
		1 2 月 1 7 日	沿岸環境監視船「しらみね」就航。
平成 19 年	2 0 0 7	2 月 2 6 日	輸入食糧船1500目隻入港。
平成 20 年	2 0 0 8	2 月 1 8 日	第11回坂出港地方港湾審議会。(軽易な変更)
		7 月 1 1 日	坂出港改修(西ふ頭地区)事業に着手。
平成 22 年	2 0 1 0	1 月 1 日	臨港地区内の分区における構築物の規制に関する条例の施行。(改正)
		1 月 9 日	LNG(液化天然ガス)輸入第1船入港。
		8 月 3 日	新規の直轄港湾整備事業の着手対象とする重点港湾に選定される。
平成 23 年	2 0 1 1	1 1 月 1 2 日	豪華客船「飛鳥II」が林田岸壁に入港。
		8 月 1 1 日	坂出市港務所支援業務委託開始。

目 次

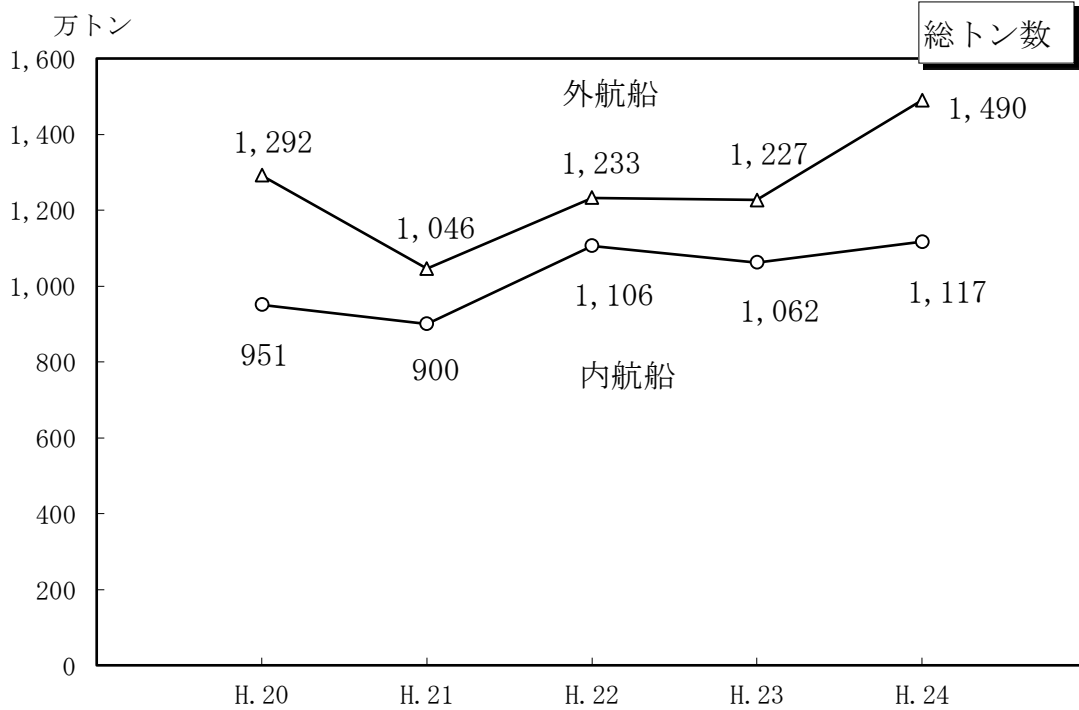
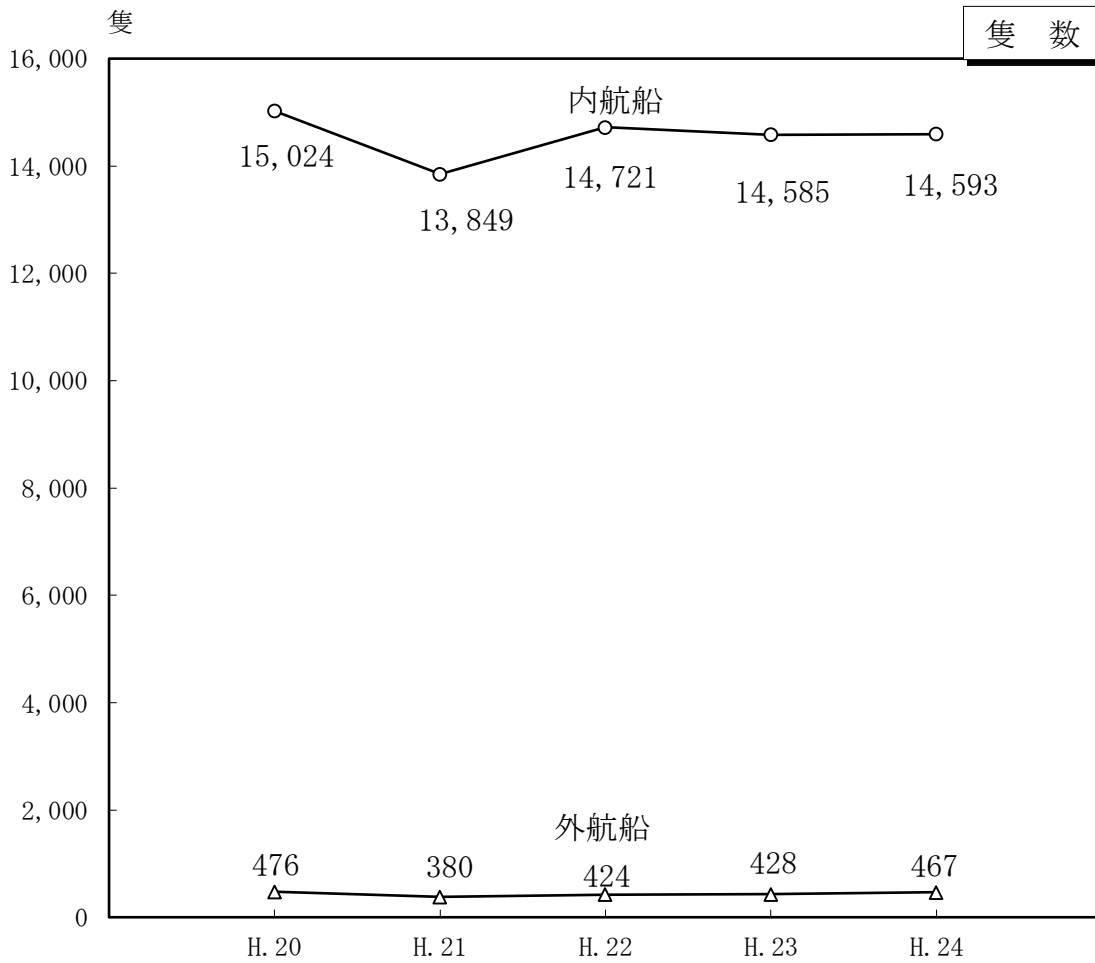
ページ

入港船舶年次比較表	1
内外航別入港船舶数年次比較表	2
入港船舶階級別年次比較表（隻数）	3
入港船舶階級別年次比較表（総トン数）	4
海上出入貨物年次比較表	5
輸移出入別比較表	6
輸出入主要品目	7
移出入主要品目	8
外貿貨物（主要品目）仕向地別（輸出）	9
外貿貨物（主要品目）仕出地別（輸入）	10
内貿貨物（主要品目）仕向地別（移出）	11
内貿貨物（主要品目）仕出地別（移入）	12
地域別入港船舶及び貨物量（1号泊地）	13
地域別入港船舶及び貨物量（2号泊地）	14
地域別外貿（主要品目）貨物量（1号泊地）	15
地域別外貿（主要品目）貨物量（2号泊地）	16
地域別内貿（主要品目）貨物量（1号泊地）	17
地域別内貿（主要品目）貨物量（2号泊地）	18
入港船舶年次比較表	19
海上出入貨物年次比較表	19

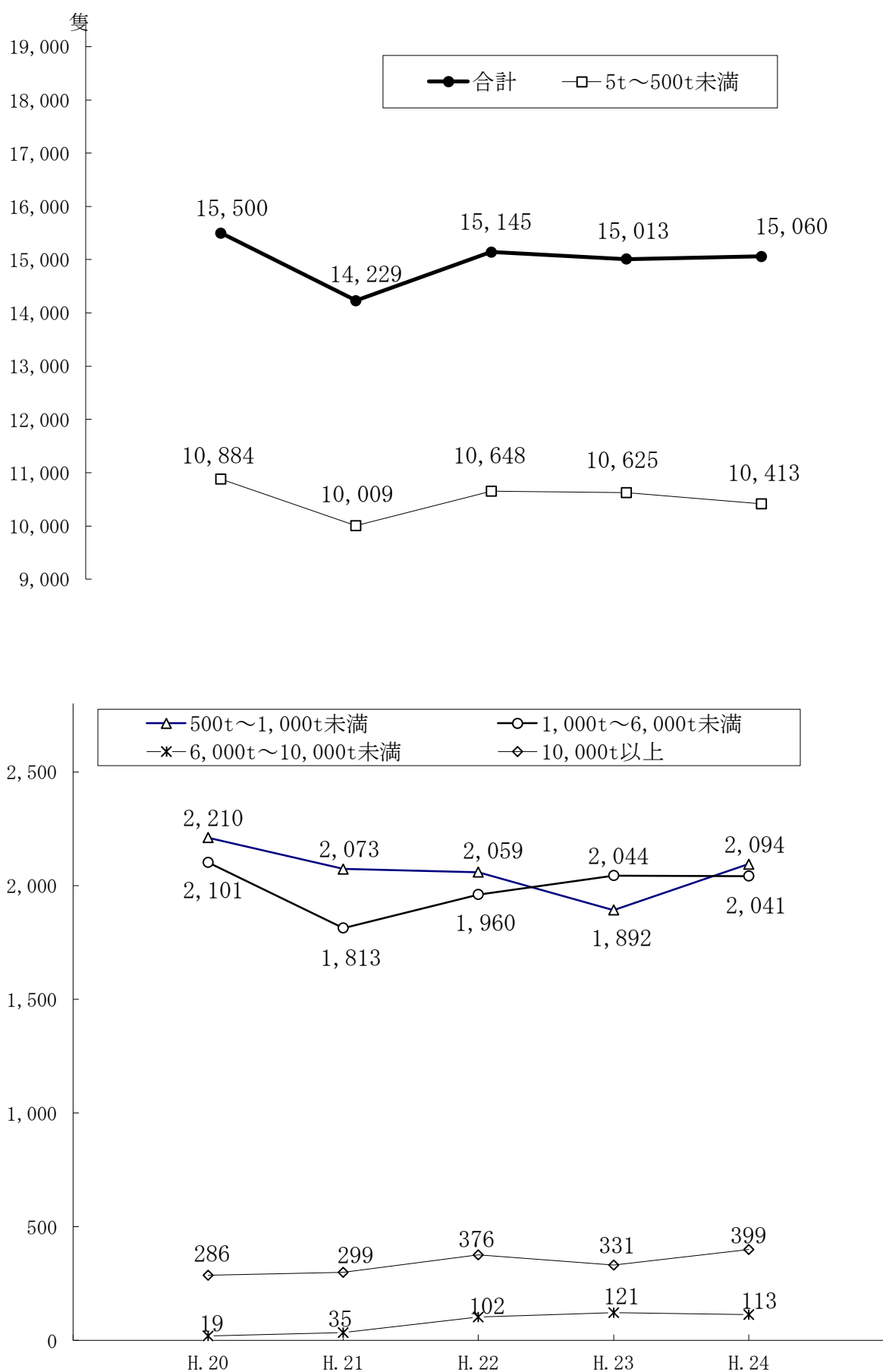
入港船舶年次比較表



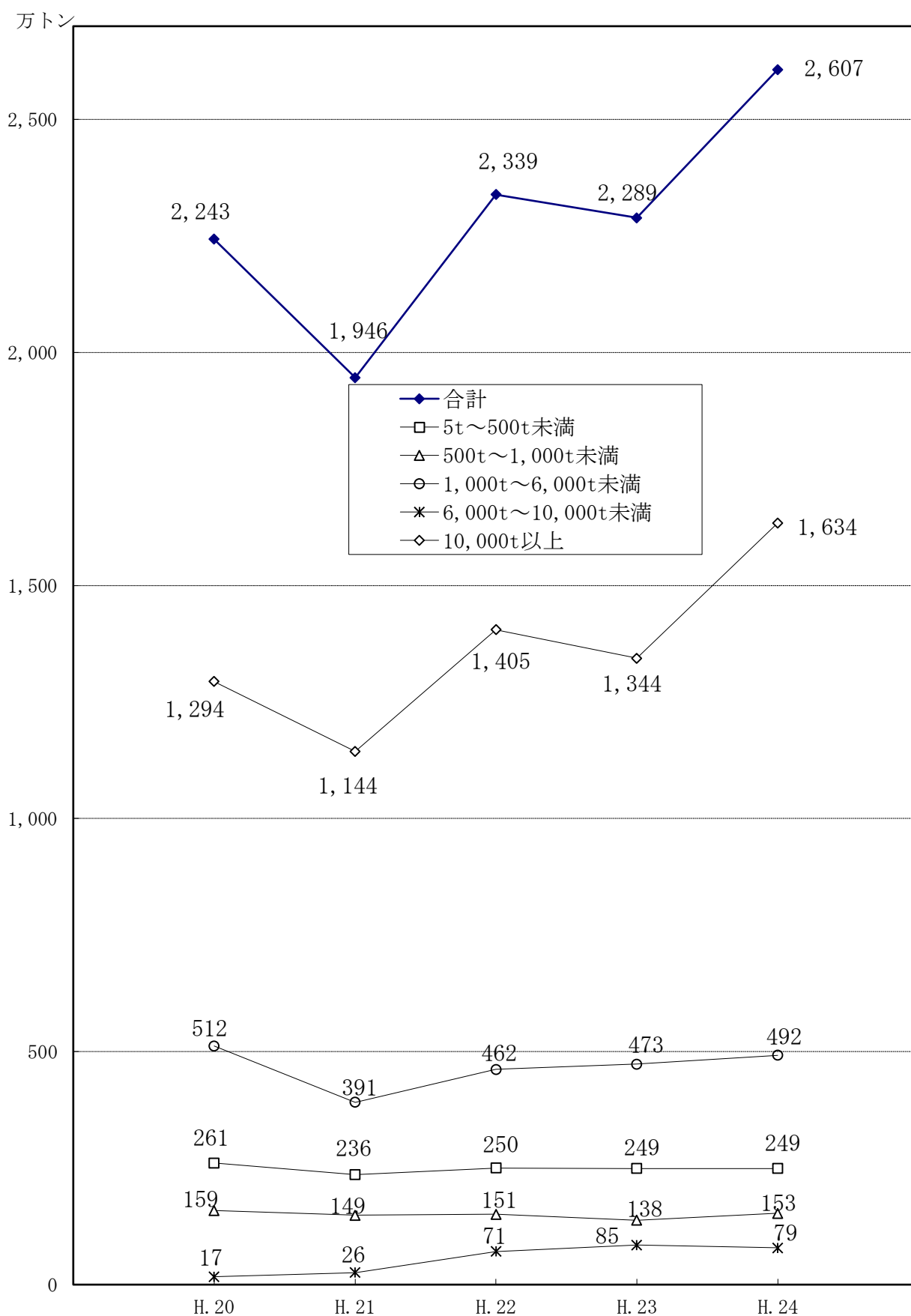
内外航別入港船舶数年次比較表



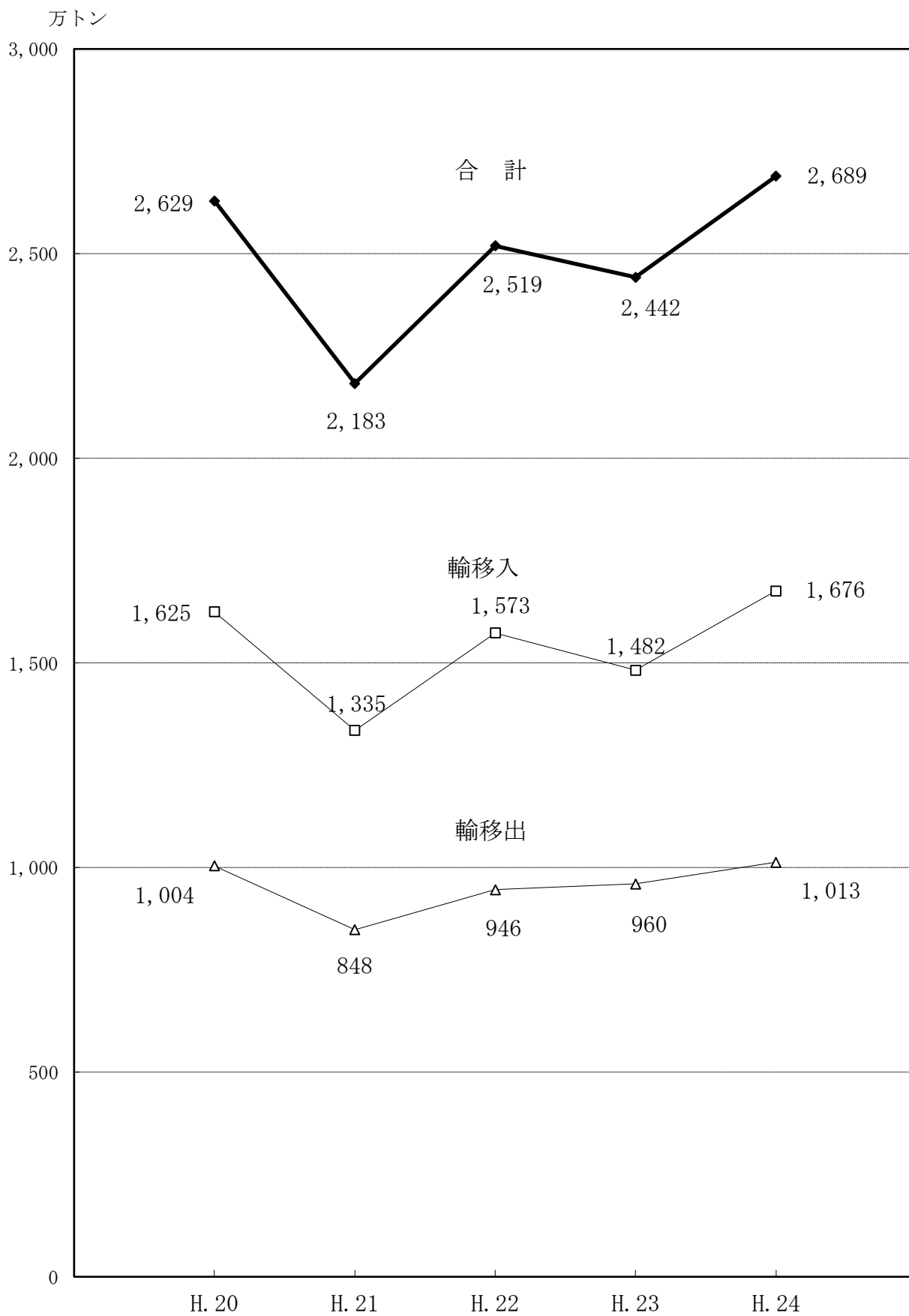
入港船舶階級別年次比較表（隻数）



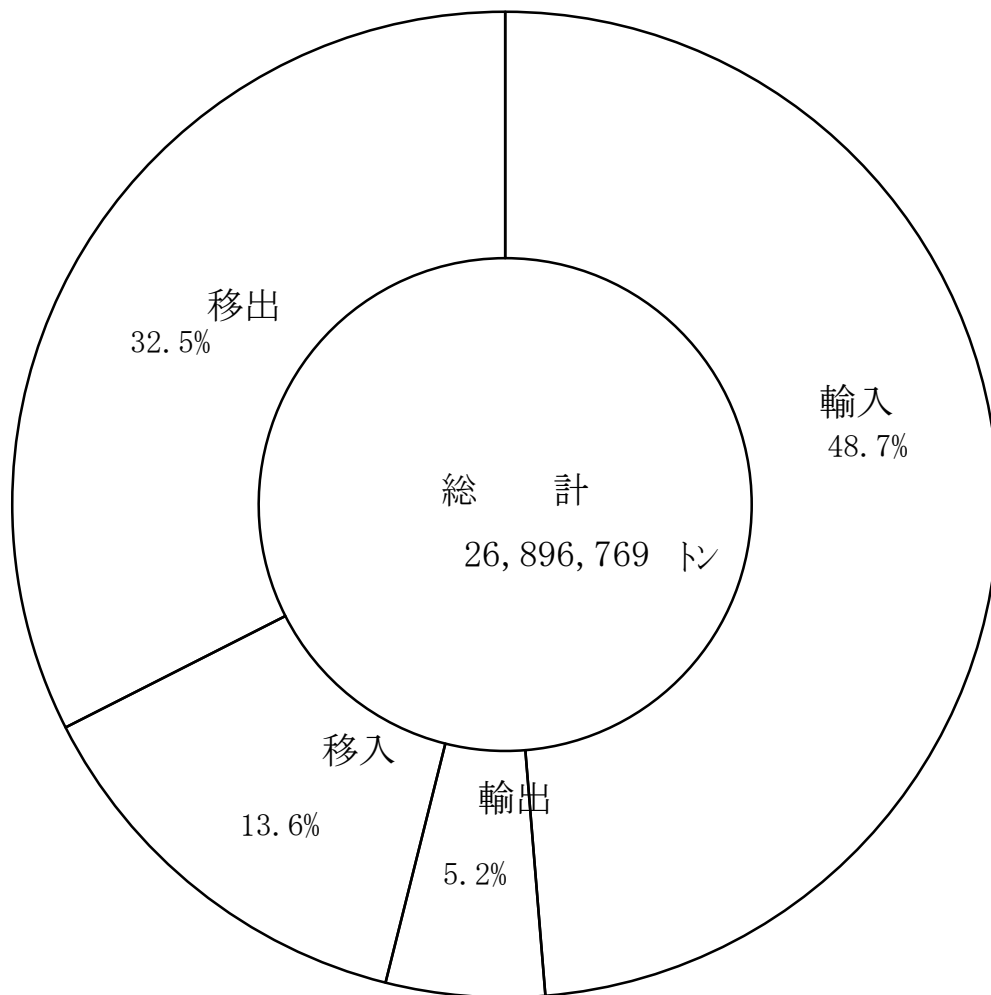
入港船舶階級別年次比較表(総トン数)



海上出入貨物年次比較表



輸移出入別比較表

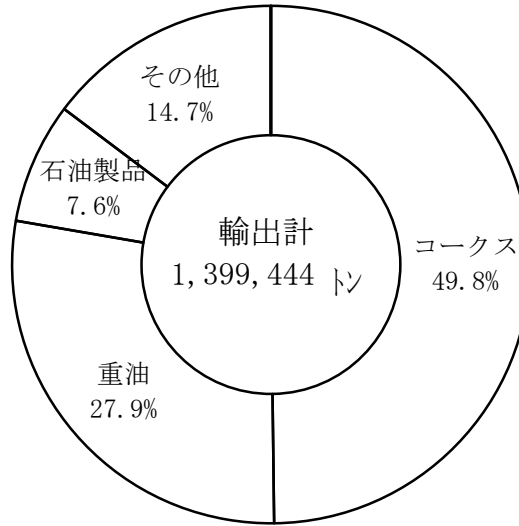


単位：トン

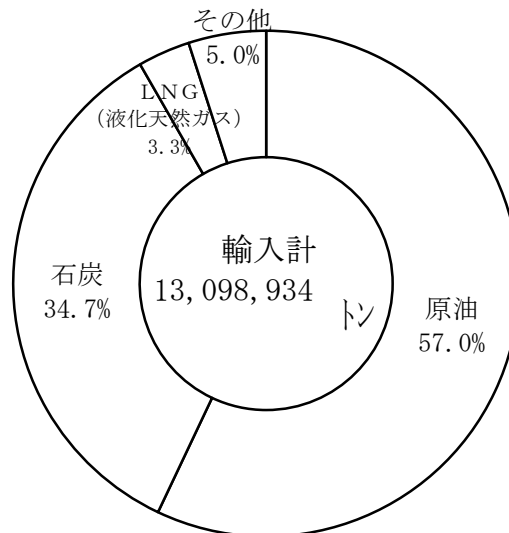
総計	26,896,769
輸入	13,098,934
輸出	1,399,444
移入	3,665,241
移出	8,733,150

輸出入主要品目

輸出



輸入

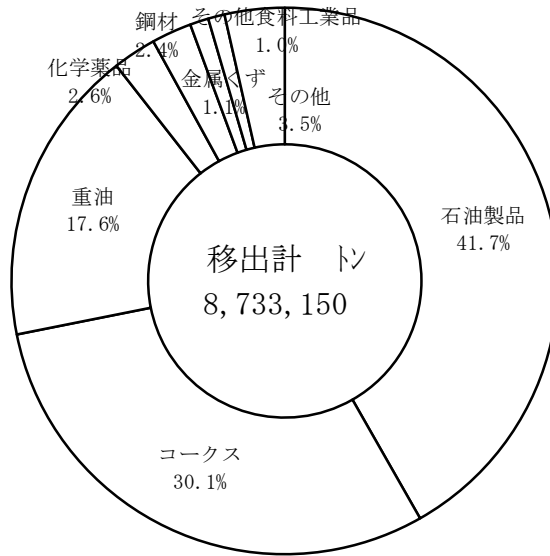


単位：トン

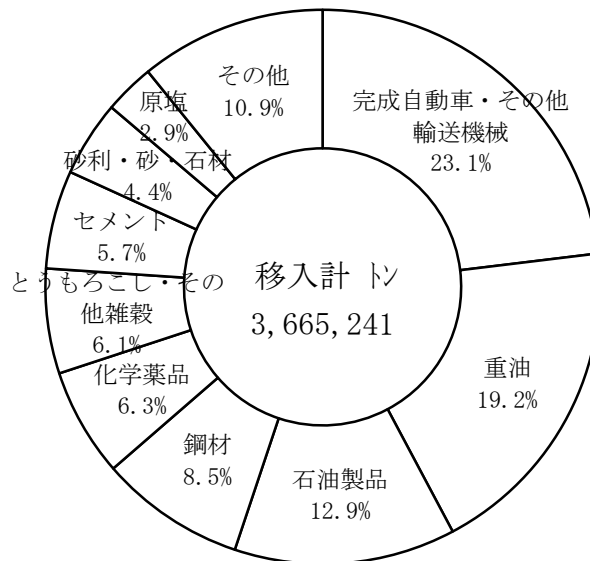
輸 出		輸 入	
コークス	696,940	原油	7,273,361
重油	390,619	石炭	4,420,551
石油製品	105,745	LNG (液化天然ガス)	426,097
その他	206,140	LPG (液化石油ガス)	346,350
		その他	632,575
計	1,399,444	計	13,098,934

移出入主要品目

移出



移入

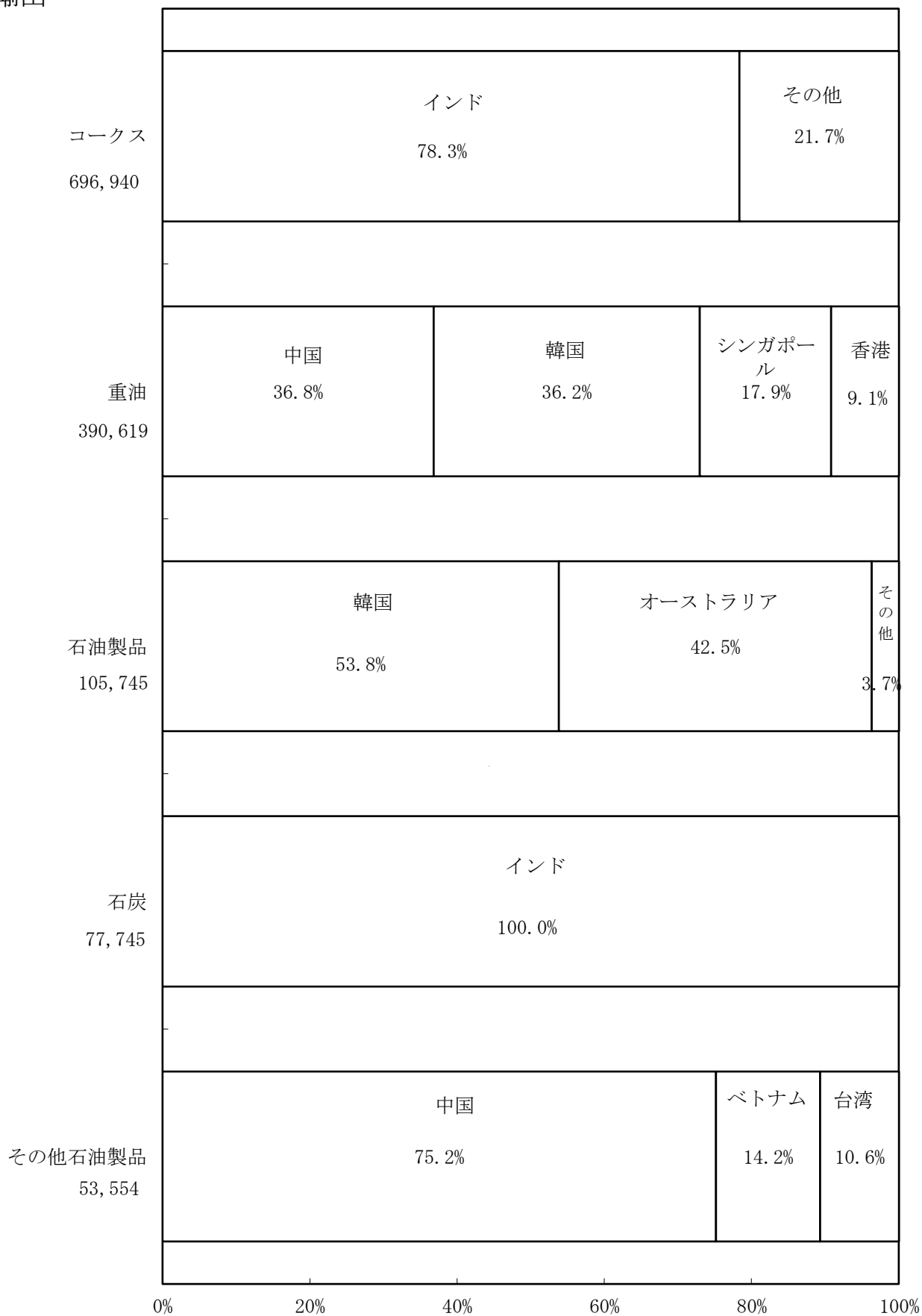


単位：トン

移 出		移 入	
石油製品	3,646,792	完成自動車・その他輸送機械	845,878
コークス	2,628,862	重油	701,665
重油	1,534,978	石油製品	473,112
化学薬品	225,117	鋼材	311,317
鋼材	206,787	化学薬品	231,818
金属くず	95,981	とうもろこし・その他雑穀	224,134
その他食料工業品	85,273	セメント	210,338
その他	309,360	砂利・砂・石材	161,893
		原塩	107,650
		その他	397,436
計	8,733,150	計	3,665,241

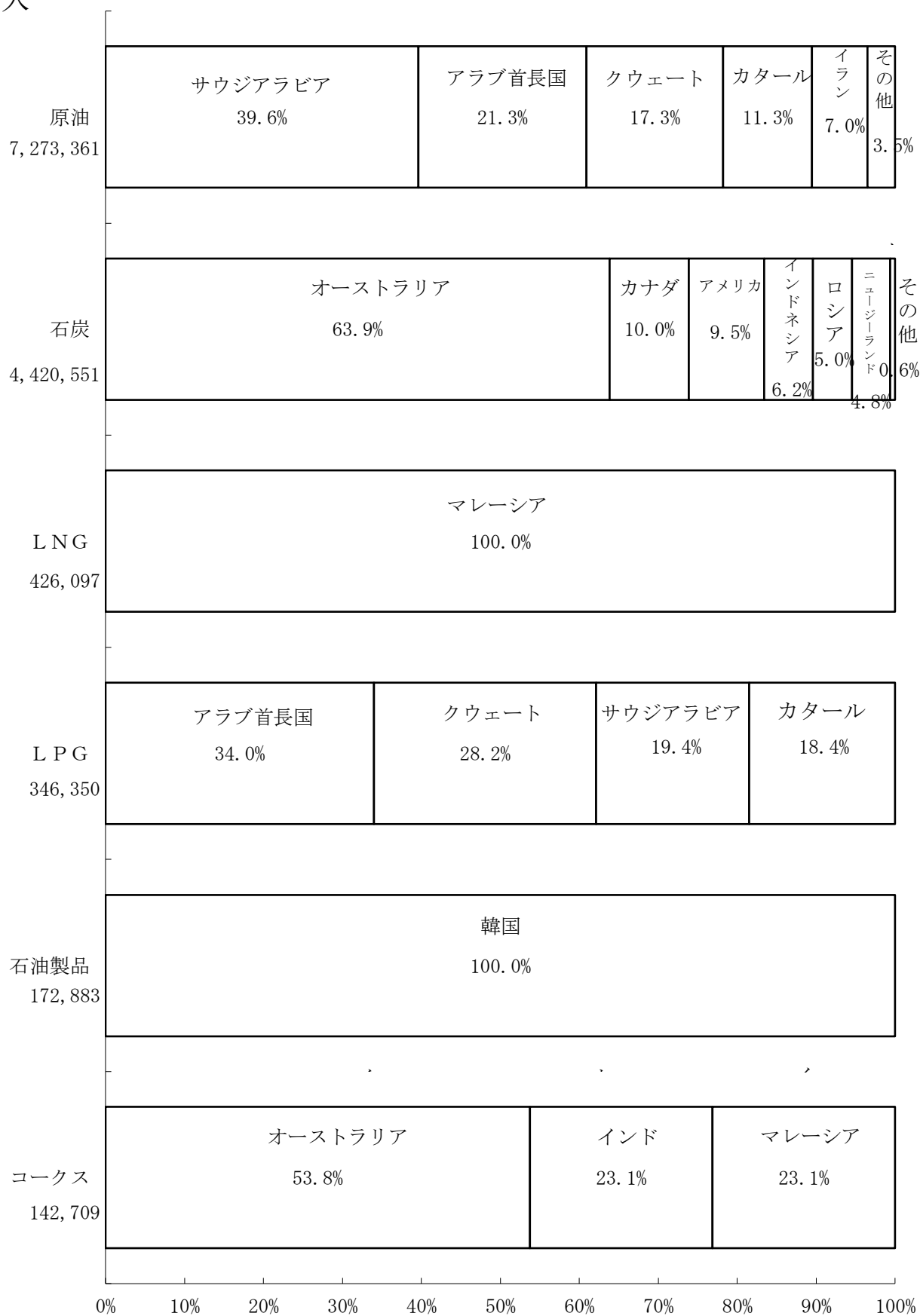
輸出

外貨貨物（主要品目）仕向地別



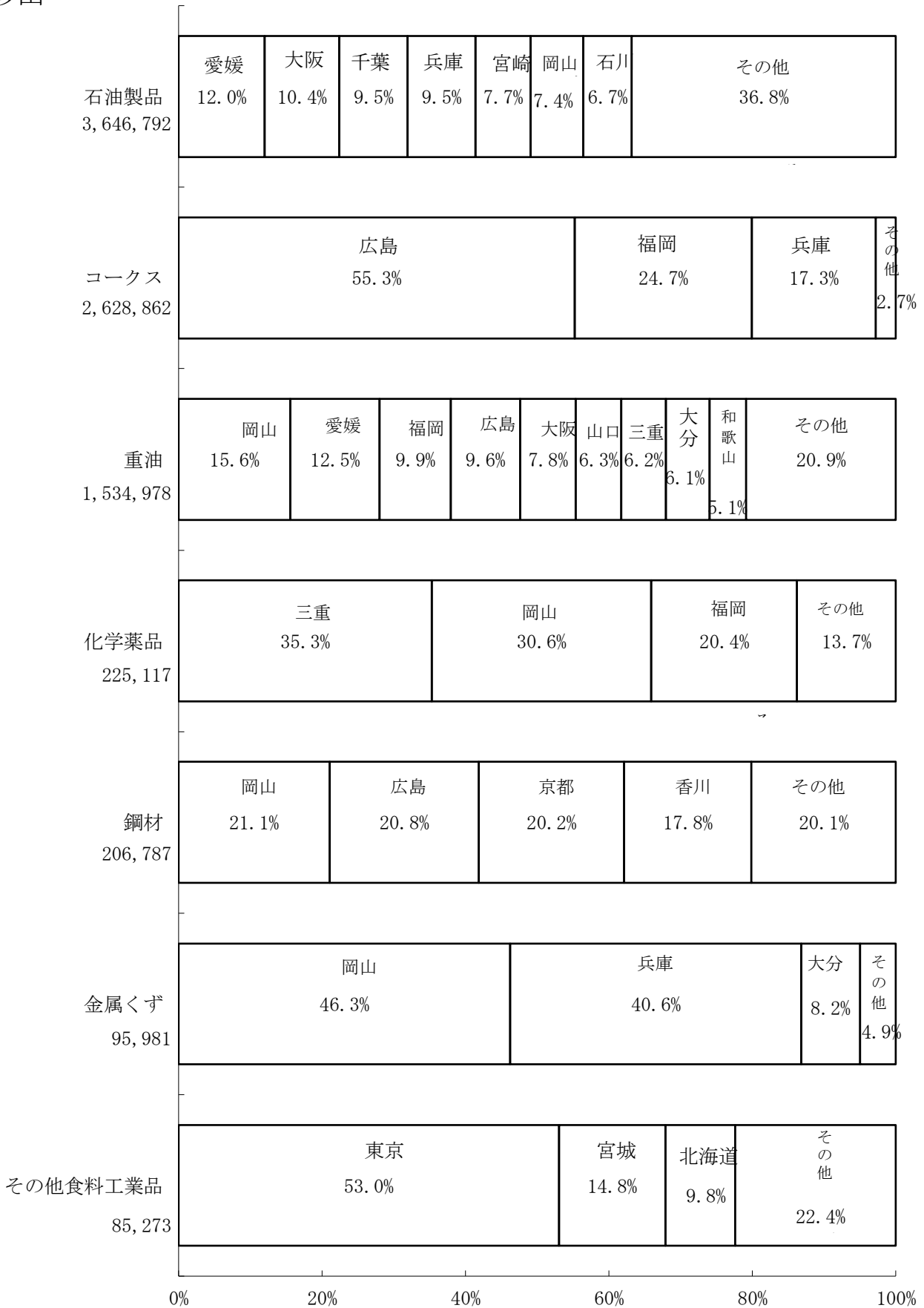
外貨貨物（主要品目）仕出地別

輸入



移出

内貿貨物（主要品目）仕向地別

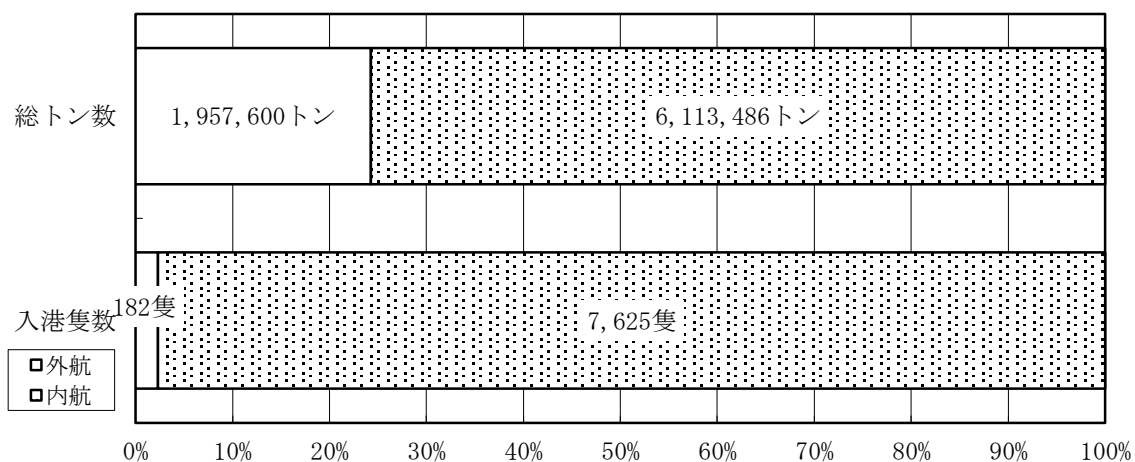


地域別入港船舶及び貨物量

1号泊地（本港）

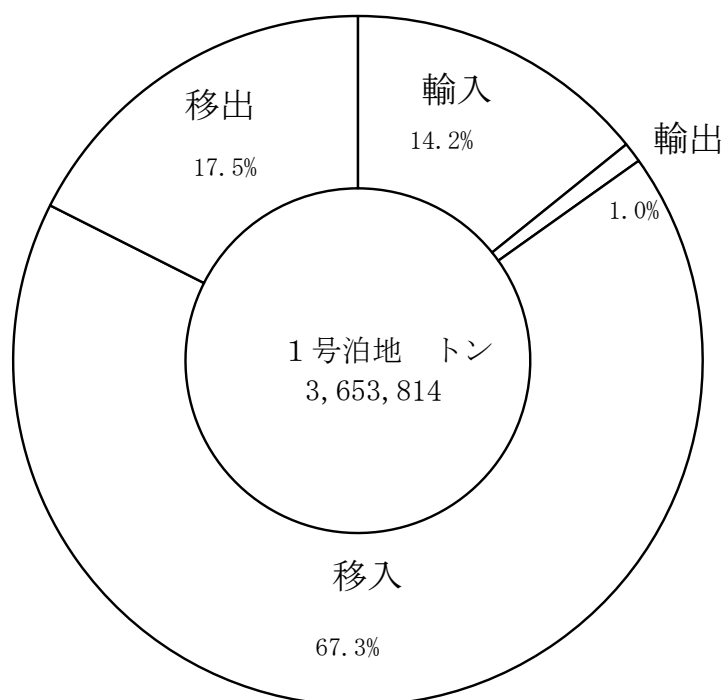
入港船舶

	入港隻数	総トン数
外航	182隻	1,957,600トン
内航	7,625隻	6,113,486トン
計	7,807隻	8,071,086トン



貨物量

輸入	518,911トン
輸出	34,734トン
移入	2,458,519トン
移出	641,650トン
計	3,653,814トン

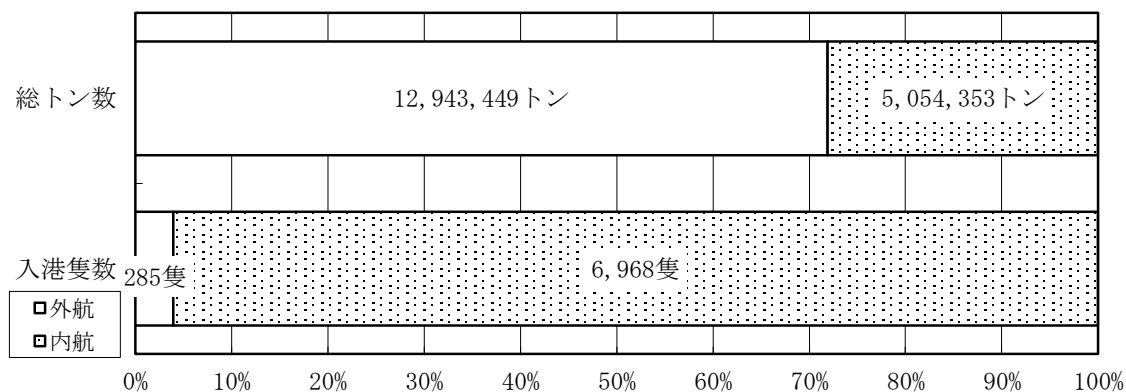


地域別入港船舶及び貨物量

2号泊地（番の州）

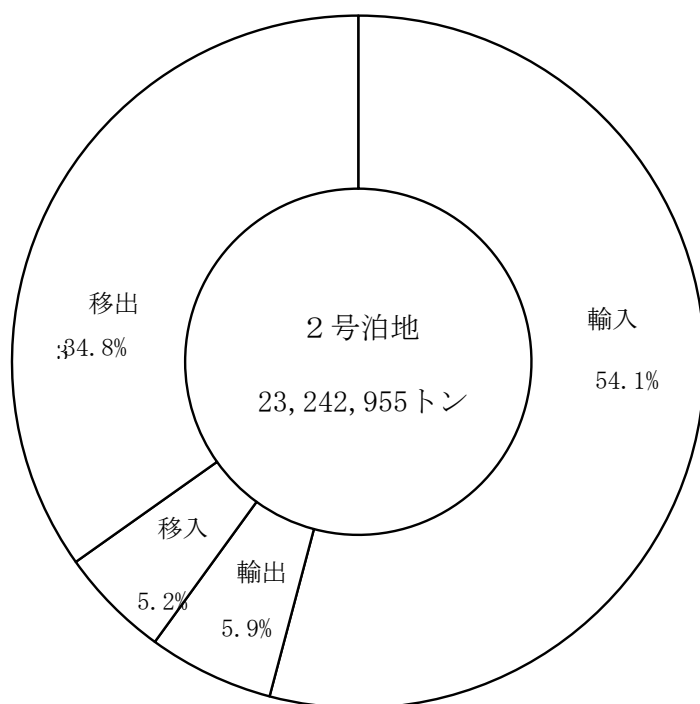
入港船舶

	入港隻数	総トン数
外航	285隻	12,943,449トン
内航	6,968隻	5,054,353トン
計	7,253隻	17,997,802トン



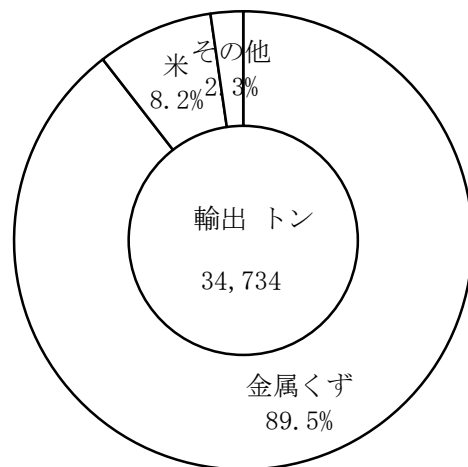
貨物量

輸入	12,580,023トン
輸出	1,364,710トン
移入	1,206,722トン
移出	8,091,500トン
計	23,242,955トン

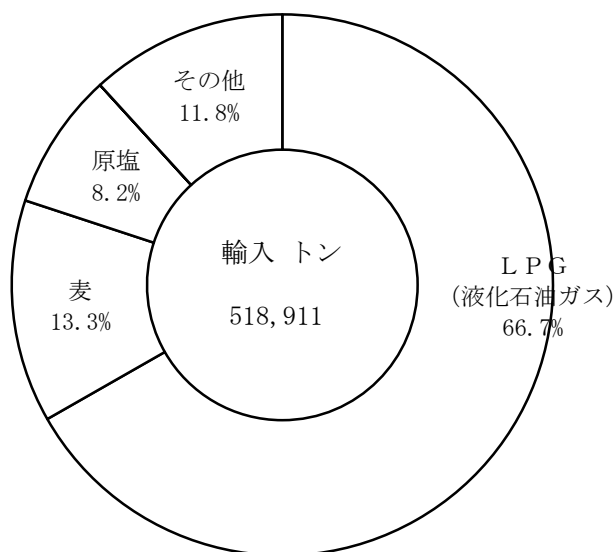


地域別外貿（主要品目）貨物量

1号泊地（本港）
輸出



輸入



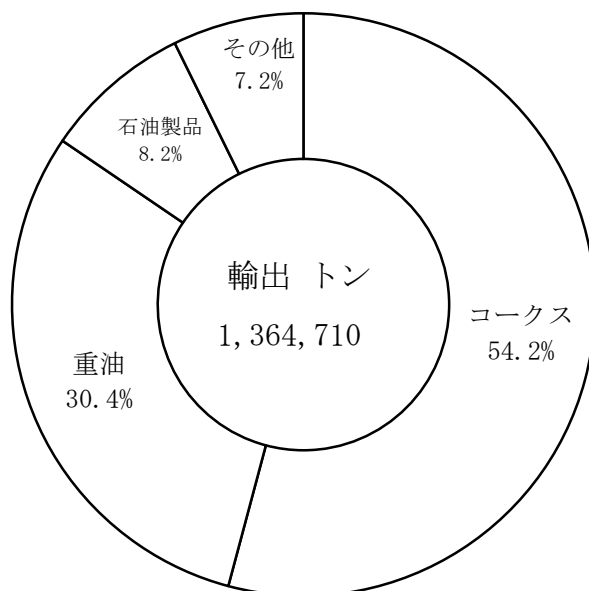
単位：トン

輸 出		輸 入	
金属くず	31,087	LPG (液化石油ガス)	346,350
米	2,852	小麦	69,075
その他	795	原塩	42,452
		その他	61,034
計	34,734	計	518,911

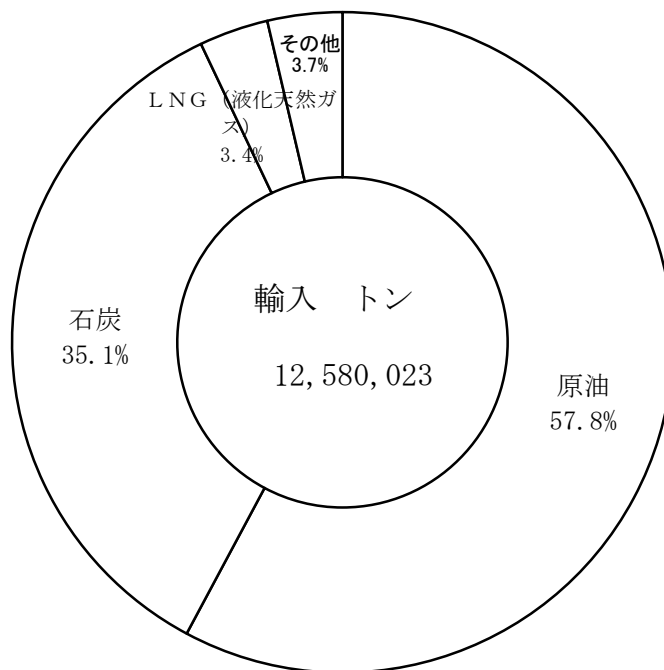
地域別外貿（主要品目）貨物量

2号泊地（番の州）

輸出



輸入



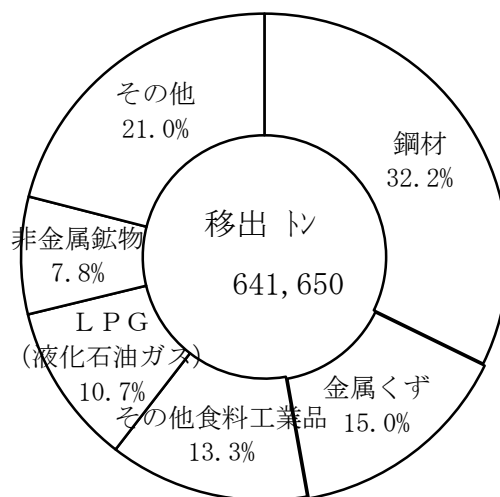
単位：トン

輸 出		輸 入	
ークス	696,940	原油	7,273,361
重油	390,619	石炭	4,420,551
石油製品	105,745	LNG (液化天然ガス)	426,097
石炭	77,745	その他	460,014
その他	93,661		
計	1,364,710	計	12,580,023

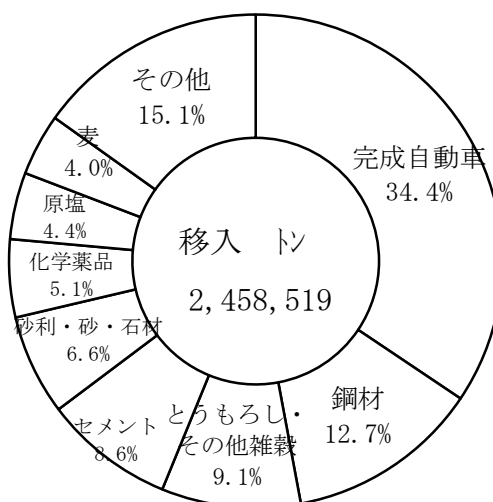
地域別内貿（主要品目）貨物量

1号泊地（本港）

移出



移入

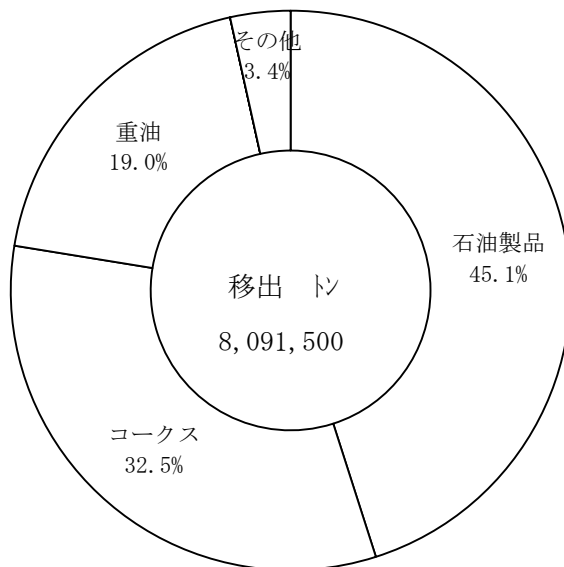


単位：トン

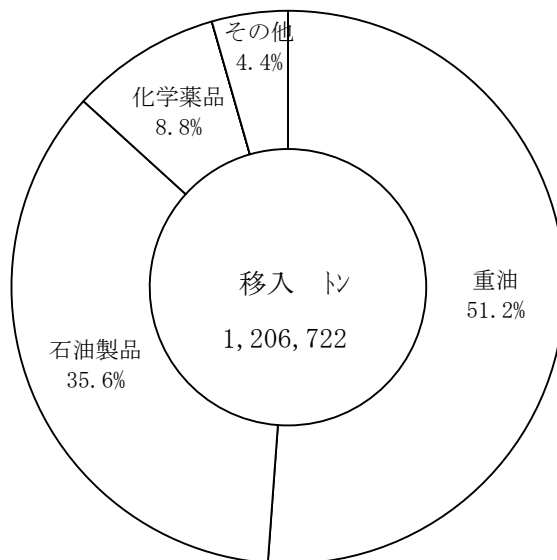
移 出		移 入	
鋼材	206,787	完成自動車	845,878
金属くず	95,981	鋼材	311,317
その他食料工業品	85,273	とうもろこし・その他雑穀	224,134
LPG (液化石油ガス)	68,853	セメント	210,338
非金属鉱物	49,990	砂利・砂・石材	161,893
		化学薬品	125,530
		原塩	107,650
その他	134,766	麦	99,680
		その他	372,099
計	641,650	計	2,458,519

地域別内貿（主要品目）貨物量

2号泊地（番の州）
移出



移入



単位：トン

移 出		移 入	
石油製品	3,646,792	重油	617,379
コークス	2,628,862	石油製品	429,462
重油	1,534,878	化学薬品	106,288
その他	280,968		
		その他	53,593
計	8,091,500	計	1,206,722

入港船舶年次比較表

年次	総 計		外 航 船		内 航 船	
	隻数 隻	総トン数 トン	隻数 隻	総トン数 トン	隻数 隻	総トン数 トン
H. 20	15,500	22,434,247	476	12,923,917	15,024	9,510,330
H. 21	14,229	19,463,919	380	10,464,795	13,849	8,999,124
H. 22	15,145	23,392,354	424	12,332,278	14,721	11,060,076
H. 23	15,013	22,894,350	428	12,277,065	14,585	10,617,285
H. 24	15,060	26,068,888	467	14,901,049	14,593	11,167,839

海上出入貨物年次比較表

単位：トン

年次	出			入			総計
	輸出	移出	出計	輸入	移入	入計	
H. 20	1,321,370	8,721,726	10,043,096	12,441,307	3,806,511	16,247,818	26,290,914
H. 21	824,442	7,652,730	8,477,172	10,045,629	3,301,940	13,347,569	21,824,741
H. 22	830,879	8,629,483	9,460,362	12,331,213	3,394,551	15,725,764	25,186,126
H. 23	804,059	8,801,582	9,605,641	11,313,113	3,505,579	14,818,692	24,424,333
H. 24	1,399,444	8,733,150	10,132,594	13,098,934	3,665,241	16,764,175	26,896,769

年次	外 国 貿 易			内 国 貿 易			総計
	輸出	輸入	計	移出	移入	計	
H. 20	1,321,370	12,441,307	13,762,677	8,721,726	3,806,511	12,528,237	26,290,914
H. 21	824,442	10,045,629	10,870,071	7,652,730	3,301,940	10,954,670	21,824,741
H. 22	830,879	12,331,213	13,162,092	8,629,483	3,394,551	12,024,034	25,186,126
H. 23	804,059	11,313,113	12,117,172	8,801,582	3,505,579	12,307,161	24,424,333
H. 24	1,399,444	13,098,934	14,498,378	8,733,150	3,665,241	12,398,391	26,896,769